

## このガイドブックを利用される方へ

現在、厚生労働省のマスクリーニング研究班（研究代表者 山口清次）では、新生児マスクリーニングにタンデムマス法を導入して、対象とする病気の数を増やし、より多くの子ども達を障害から守ろうという研究を進めています。これを「タンデムマス・スクリーニング」といいます。このスクリーニングでは、有機酸・脂肪酸代謝異常症などの早期発見が可能となり、一回の検査で発見できる対象疾患は現行のアミノ酸代謝異常症3疾患を含む16種類に増えます。

このガイドブックでは、新たに対象疾患として加わる有機酸・脂肪酸代謝異常症の症状や治療、日常生活の注意点や、相談先などを解説しました。タンデムマス・スクリーニングによって発見される病気の理解、ネットワーク作りに、この冊子がお役に立てば幸いです。

本ガイドブックの一部は平成21、22年度特殊ミルク改良開発部会・第一部会での研究成果をもとに作成しました。部会長の北川照男先生をはじめ、委員の先生方に深謝します。

（平成23年2月、研究分担者 大浦敏博）

